# 卒後教育開発センター

## 1. スタッフ

センター長(兼)教授 和佐 勝史 その他、教授1名、准教授1名、講師1名、助教3 名、事務職員2名、事務補佐員1名

(兼任を含む。また、教授、事務職員は特任を含む。) (令和2年4月1日より

センター長 (兼) 教授 渡部 健二)

## 2. 活動内容

## (1) 発足経緯と目的

平成16年度にスタートした新臨床研修制度において、研修医は単一医局に所属した単一診療科での臨床研修ではなく、幅広い診療能力を身に付けるべく各診療科を異動する総合診療方式 (スーパーローテート)による臨床研修を行うこととなった。これに際し、研修プログラムや研修医の管理、評価などを行う管理体制として新制度開始に先立つ平成15年度に「卒後臨床研修センター」を設置した。平成17年度に新制度での第一期修了生を送り出し、継続する形で平成18年度には臨床研修修了者を対象とする専門医育成プログラムを開始した。平成20年9月に現在の「卒後教育開発センター」に改称し、従来の臨床研修医のための阪大プログラムの企画運営と、その後の専門医取得を目指す専門研修プログラム、さらには生涯教育まで、医師の一貫教育支援体制を目的として活動している。

## (2) 主な活動内容

- 1) 臨床研修
- ・臨床研修プログラムの作成と運営
- ・臨床研修指定病院としての厚生労働省への各 種届出・医師臨床研修マッチングへの参加
- ・研修医の募集・採用試験の実施
- 研修医向け勉強会の企画・立案
- ・研修医のメンタリング
- ・研修医及び指導医の評価
- ・研修医の事務管理
- ・臨床研修指導医養成講習会の企画・実施
- 研修管理委員会の開催運営
- ・研修協力病院、研修協力施設との連絡・連携
- 2) 専門研修
- ・本院専門研修プログラムの全体把握
- ・プログラム説明会開催など専攻医募集支援
- ・専攻医募集に関わる情報収集と提供、会合設定
- ・プログラム参加者データ管理
- · 専門医 · 認定医取得状況調査

- ・専門共通講習会の企画・院内開催
- ・専門研修プログラム連絡協議会の開催運営
- 3) スキルズラボの管理運営
- 4) CST (Cadaver Surgical Training) の管理運営
- 5) 特定行為研修の管理運営

## 3. 活動体制

本院では、医学部における卒前教育と医学部附属病院における卒後教育との連携協力を推進するため、センター長及び副センター長がそれぞれ医学部医学科教育センターのセンター長及び副センター長を兼務する体制をとっている。当センターでは、各診療科等の臨床研修委員や専門研修担当者と連携を図りつつ、臨床研修制度の運営や各診療科が運営する専門研修プログラムの支援等を行っている。また、毎月1回センター会議を開催し、研修の進捗状況と指導医等による研修医評価等を確認するとともに、研修医からの要望事項を共有し、研修制度の改善に努めている。さらに、下記委員会と連携しながら臨床研修プログラムの円滑な実施と改善に努めている。

・臨床研修委員会:院内各診療科の研修委員が出席

(年3回開催)

- ・臨床研修管理委員会:院外の研修協力病院、協力施設の 研修責任者が出席(年3回開催)
- ・臨床研修検討委員会:院内の病院長、指名された診療科長、試験委員長等が出席(随時)

## 4. 活動実績

#### (1) 臨床研修

## 1) 令和元年度研修医数

平成31年4月1日現在の研修医数は105名(院外を含む)である。各年度別の研修医数は以下のとおりである。

## i) 平成30年度研修医(2年目)

17 17000 120100 (2 1 17)				
プログラム名	本学卒業生	他学卒業生	合計	
大阪大学コース	1名	9名	10名	
協力型研修病院・大 阪大学コース	10名	28 名	38名	
小児科重点	0名	0名	0名	
産科婦人科重点	0名	1名	1名	
合 計	11 名	38 名	49 名	

## ii) 令和元年度研修医(1年目)

プログラム名	本学卒業生	他学卒業生	合計
大阪大学コース	7名	7名	14名

協力型研修病院・大阪大学コース	8名	31 名	39 名
小児科重点	0名	1名	1名
産科婦人科重点	1名	1名	2名
合 計	16 名	40 名	56 名

#### 2) 令和元年度臨床研修プログラムへの対応

平成22年度から内科・救急・地域医療が必修科目 となり、外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科が 選択必修科目に変更されたことに伴い、これらをす べて経験できるプログラムに変更した。加えて ACLS (二次救命処置) 講習会、リスクマネジメント講習 会、院内感染対策講習会、CPC(病理カンファレンス) を開催している。平成26年度よりメンタリング制度 を導入し、研修医に対するきめ細かい指導及びフォ ローを行っている。平成28年度より英語による診療 を学ぶ「Case discussions in English for Residents (CDER)」を導入し、平成 29 年度よりハ ーフディバックとして火曜日夕方を CDER やレクチ ャー、ケースプレゼンテーション、実習を行う研修 医勉強会の時間とするなど、修学を促進している。 同年度より沖縄地方の離島研修を開始し、プライマ リ・ケアの研修の充実を図っている。一方、福利厚生 の一環として、平成30年度より研修医の職員用借上 げ宿舎の利用を開始している。一部を研修医が使用 出来るようにした。

- 3) 令和2年度医員(研修医)募集について
- i) プログラム
- a. プログラム方式

本院(基幹型臨床研修病院)と学外協力型臨床研修病院で病院群を構成する。

- b. 募集人員:61名
  - ・大阪大学コース:1年目、2年目とも本院
  - ・協力型研修病院・大阪大学コース:1年目学外 研修病院/2年目本院
  - ・阪大プログラム各重点コース:大阪大学 コースと同じ内容
- ii) 研修方法(大阪大学コース)
- a.1年目研修

内科 (24 週):6 グループの内科系診療科から 4 診療科グループを選択し、4 週または8 週研修 する。

救急 (12 週): 本院含む 4 施設から 1 施設を 12 週 研修する。

選択必修科目 (12 週): 外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科から2 科以上を12 週研修する。

## b.2年目研修

1年目に選択しなかった選択必修科を研修し、残りの期間(32週)を全診療科から自由に選択する。 地域医療(4週):地域のクリニックまたは 離島医療機関から1施設を4~8週研修する。

iii) 研修方法(協力型研修病院・大阪大学コース) 協力型臨床研修病院 29 病院から 1 年目研修病院 を選択して研修を行う。

#### (2) 専門研修

1) 卒後3年目以降の専攻医を対象に各診療科が運営する専門研修プログラムへの参加登録状況を把握し、関係機関からの調査へ対応した。本プログラムは本院と研修連携施設が協力し、地域医療に貢献するとともに、幅広く活躍する高度な医療人の育成、各領域の専門医等の取得を目的としている。癌、免疫、再生医療など最先端の研究を行い、臓器移植、国際医療などの推進を使命とする本院と、地域の中核病院が連携、相互補完することにより、目標を効率的かつハイレベルで到達可能な環境を整えている。令和元年度は7月6日(土)に中之島センターでプログラム説明会を開催し、34診療科がブース形式で面談を行い、90名を超える参加者を得た。

2) プログラム参加状況

<令和元年度>

プログラム新規参加者数:158名 初期臨床研修施設が本院の者 24名 (15.2%) 卒業大学が本学の者 54名 (34.2%)

プログラム参加者総数:1,181名 卒業大学が本学の者 454名 (38.4%) 本院勤務または大学院生 419名 (35.5%)

3) 専門医共通講習会(日本専門医機構認定)

令和元年 12 月 18 日に本院感染制御部長朝野和典 先生を講師に迎え専門医の更新に必要な専門医共通 講習会 (感染対策)を本院フォーラムとして開催。計 98 名の参加を得た。医師 75 名には後日受講認定証 を発行した。

(3) スキルズラボの管理運営

<令和元年度実績>

- 1) 利用件数 (予約件数): 345件
- 2) 利用人数: 7,051名
- (4) CST (Cadaver Surgical Training) の管理運営 <令和元年度実績>
  - 1) 専門委員会開催回数:4回
  - 2) 研修実施回数:5回(21診療科23事業)
  - 3) 研修参加人数:189名
- (5) 特定行為研修の管理運営

令和2年度からの運用開始に先立つ準備と管理構築